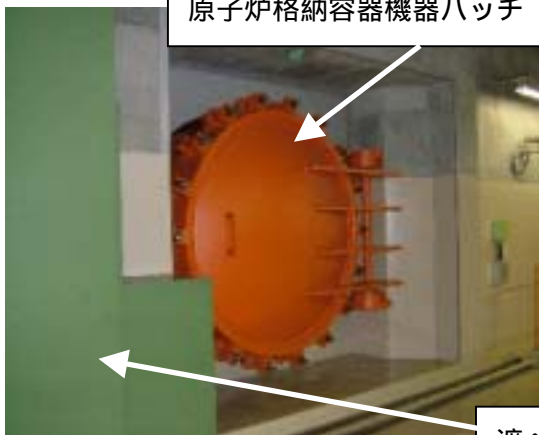


女川原子力発電所 定期検査・主要機器点検情報

No. 2

(平成17年5月分)

号 機	2号機		定 期 検 査	第 7 回定期検査	
件 名	原子炉建屋のバルブラッピング室における放射線レベルの上昇について				
月 日	平成17年5月30日(月)		発 生	発 見	確 認
場 所	原子炉建屋	設 備	遮へい扉	設備区分	その他
設備概要	遮へい扉は、高線量区域の放射線を遮へいするために設置しているポリエチレン材を入れた鋼鉄製の扉です。				
所 見	- 原子炉起動中の5月30日午前4時24分に、原子炉建屋1階のバルブラッピング室の放射線レベルが上昇したことを示す警報（警報値0.01mSv/時）が発生したため、起動操作を一時中止し、調査を実施しました。 - 調査の結果、原子炉建屋1階のバルブラッピング室の遮へい扉が開いており、原子炉起動に伴い同室内の放射線量が増加したことから、放射線測定器の指示値が上昇したことが分かりました。 - このため、当該扉の閉操作を行い、同室の放射線測定器の指示値が低下したことを確認しました。また、原子炉建屋原子炉棟にあるすべての遮へい扉の点検を行い、すべての遮へい扉が閉じていることを確認しました。 - なお、起動操作は午前9時20分に再開しました。本事象に伴う放射性物質の漏えいおよび環境への影響はありません。 - 原因は作業終了後の遮へい扉の閉止確認が不十分であったためであり、再発防止対策として、工事終了後には遮へい扉を確実に閉止することを工事要領書に明記するとともに、起動前パトロールのチェック項目として、遮へい扉の閉止を確認することを明記いたします。 警報値は、その場所に1時間滞在したときの被ばく線量に換算すると0.01mSv（胸のレントゲン検診の約1/5）程度になる値であり、ごく僅かな放射線量で警報が発生するように設定しています。				
	原子炉格納容器機器ハッチ  遮へい扉閉止前 格納容器側 バルブラッピング室側  遮へい扉閉止後 遮へい扉				